

## 降雨で乾田直播を適期に実施できなかった時の対応

降雨で乾田直播を4月中旬の適期に実施できなかった場合、ハトムネ状態に催芽した籾を乾田直播する方法（以下、乾直晩播）があります。令和4年産の「にじのきらめき」において、乾直晩播と晩植の所得を比較する現地実証を行ったところ、乾直晩播の方が高い結果となりました。

今回は、乾直晩播の除草体系と経営評価についてお伝えします。

### 1. 令和6年産の降雨状況

現在までの降雨状況を見ると、3月23日から断続的に降雨があり、3月26日に30.5mm/d、3月28日に23.0mm/dが観測されました（図1 古河アメダス）。ほ場の排水性が劣る場合、適期に播種できない恐れがあります。

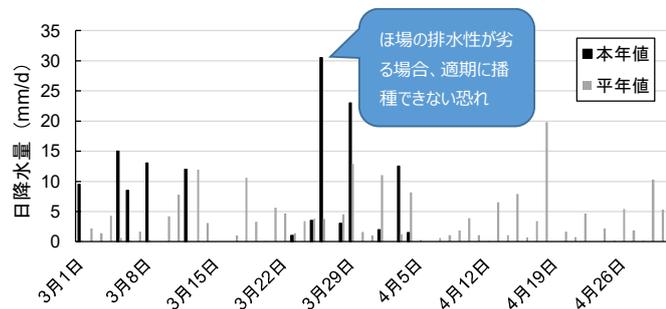


図1 令和6年3月～4月の降雨状況

- 1) 古河アメダスによる。平年値はH31～R5の平均値を示す。
- 2) 本年値は令和6年4月4日までの数値を使用。

### 2. 乾直晩播の除草体系と経営評価

#### (1) 除草体系

降雨でやむを得ず催芽籾を晩播する際は、鎮圧作業は播種前に行いましょう。

除草剤は、播種前と入水前の処理（表1、A、B）、入水後の処理（C）の合計3回の体系処理を基本とします。表2に示す薬剤例を参考に適切に実施しましょう。

表1 乾田直播栽培の適期播種と晩播の除草体系の比較

月	4月			5月			6月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	← 水稻播種 →			← 水稻出芽 →			入水		
適期播種体系		※の鎮圧後	芽前処理			② 処入理水前			③ 処入理水後
月	4月			5月			6月		
旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	← 水稻播種 →			← 水稻出芽 →			入水		
晩播体系		※の鎮圧前	A 処播理種前			B 処入理水前	催芽籾の場合、7日～10日で出芽します		C 処入理水後

表2 乾直晩播の除草体系で使用する薬剤例

除草体系	薬剤名	適用雑草	使用方法	使用量	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	有効成分(使用回数)
A	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	雑草茎葉散布	200～500mL/10a	通常散布 50～100L/10a 少量散布 5～50L/10a	播種30日前～出芽前(雑草生育期) <b>(乾田不耕起栽培)</b>	2回以内	グリホサートカリウム塩 (2回以内)
		多年生雑草	雑草茎葉散布	200～500mL/10a	少量散布 5～50L/10a			
	エイトアップ液剤	一年生雑草	雑草茎葉散布	250～500mL/10a	50L/10a	播種30日前～出芽前(雑草生育期) <b>(乾田耕起栽培)</b>	2回以内	グリホサートイソプロピルアミン塩 (2回以内)
B	マーシェット乳剤	一年生雑草	全面土壌散布	1000～1500mL/10a	通常散布 50～100L/10a 少量散布 25～50L/10a	乾田直播の播種直後～稲出芽前(雑草発生前)(入水15日前まで)	1回	ブタクロール (2回以内)
		一年生雑草	全面土壌散布	500mL/10a	通常散布 50～100L/10a 少量散布 25～50L/10a			
	クリンチャーバスME液剤	一年生雑草	乾田・落水状態で雑草茎葉散布または全面散布	1000mL/10a	70～100L/10a	播種後10日～ノビエ5葉期(ただし、収穫50日前まで)	2回以内	シハロホップブチル(3回以内) ペンタゾンナトリウム塩(2回以内)
C	水稲とノビエの生育(●葉期)等に応じて、直播水稲に登録のある除草剤を使用する。							

(2) 経営評価

所得は、乾直晩播の方が高くなりました。これは、晩植と比べて農薬費と肥料費は高かったものの、収量が晩植より17%多かったことが影響しました(表3)。

このことから、降雨で適期に乾田直播できなかつた場合は、晩播で対応した方が良いと推察されました。

3. まとめ

今回ご紹介した内容は、降雨で適期に乾田直播が実施できなかつた際、晩播とするか、新たに苗を作り晩植とするかを判断する1つの材料です。一方で、5月上旬時点で苗の余分があり、ほ場の鎮圧が不十分で代かき作業に支障が出ないようであれば、適期移植に切り替えた方が良いと考えられます。

前提として、乾田直播は適期播種で多収となります。催芽糶で晩播する方法はやむを得ない時の対応策とし、翌年産では、適期播種ができるように弾丸暗渠の施工や明渠と排水路の接続等のほ場の排水対策を行いましょう。

農薬を使用する際は、必ず使用前にラベルを見て、対象作物、使用量や散布液量、使用時期、使用回数等を確認しましょう(令和6年4月1日登録確認)。農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないように注意しましょう。

表3 輸出用の「にじのきらめき」における乾直晩播と晩植の経営評価

		乾直晩播	晩植
播種日または移植日		5/30	6/8
粗収益	(円/10a)	104,633	94,833
	収量 (kg/10a)	554	470
	販売価格 (円/60kg)	7,000	7,000
	交付金等 (円/10a)	40,000	40,000
経営費	(円/10a)	89,594	85,503
うち農薬費	(円/10a)	10,658	6,723
うち肥料費	(円/10a)	9,580	6,360
所得	(円/10a)	15,039	9,330